

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-312227

(P2001-312227A)

(43)公開日 平成13年11月9日 (2001.11.9)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	マーク(参考)
G 09 F 9/40		G 09 F 9/40	Z
G 02 F 1/13	5 0 5	G 02 F 1/13	5 0 5
1/133	5 6 0	1/133	5 6 0
1/1333		1/1333	
G 06 F 1/16		G 06 F 1/00	3 1 2 G

審査請求 未請求 請求項の数25 O.L (全21頁) 最終頁に続く

(21)出願番号	特願2001-6828(P2001-6828)	(71)出願人	000005821 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地
(22)出願日	平成13年1月15日 (2001.1.15)	(72)発明者	中村 哲朗 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器 産業株式会社内
(31)優先権主張番号	特願2000-49735(P2000-49735)	(72)発明者	立川 雅一郎 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器 産業株式会社内
(32)優先日	平成12年2月25日 (2000.2.25)	(72)発明者	松尾 浩之 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器 産業株式会社内
(33)優先権主張国	日本 (JP)	(74)代理人	100083172 弁理士 福井 豊明

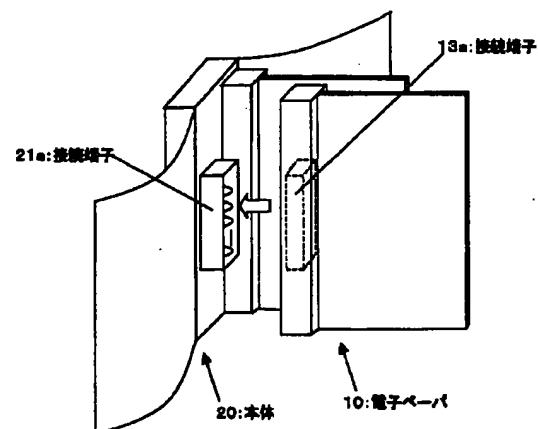
(54)【発明の名称】電子ペーパファイル

(57)【要約】

【課題】電子ペーパと本体とを着脱可能とした電子ペーパファイルを提供する。

【解決手段】物理的または電気的に接続機能を備えた接続端子を、電子ペーパと本体とに備えることで、電子ペーパと本体とを着脱可能としている。また、表示用データは、電子ペーパの表示部に備えら不揮発性メモリに記録されるようにしているため、本体から取り外された電子ペーパは、その表示内容を保持することになる。更に、本体に備えられた接続端子は回転自在な可動軸片に備えられており、所望のページを見開いた状態で保持することが可能となる。

本発明を適用した電子ペーパファイルの外観図



【特許請求の範囲】

【請求項1】 紙様のフレキシブルな表示媒体である電子ペーパと、この電子ペーパの表示部に信号授受手段よりの表示用データを記録する表示発光制御手段を備えた本体とからなる電子ペーパファイルにおいて、上記電子ペーパと本体とを着脱可能としたことを特徴とする電子ペーパファイル。

【請求項2】 物理的な接続機能と電気的な接続機能とを兼ねた雄雌一対の接続端子の一方を上記電子ペーパの表示部の一方端に備えるとともに、この接続端子の他方を上記本体側に備えることによって、上記電子ペーパと本体とを着脱可能とした請求項1に記載の電子ペーパファイル。

【請求項3】 上記他方の接続端子における当該本体上の配列位置を固定にした請求項2に記載の電子ペーパファイル。

【請求項4】 上記他方の接続端子を備えた複数の可動軸片を、相互に回転自在に軸方向に組き合わせた接続体を構成するとともに、当該接続体を本体に対して回転自在に固定した請求項2に記載の電子ペーパファイル。

【請求項5】 上記他方の接続端子における上記電子ペーパの着脱状況を検知する着脱検知手段と、上記着脱検知手段が検知した着脱状況に基づいて上記表示用データの表示処理を行う表示発光制御手段を備えた請求項3に記載の電子ペーパファイル。

【請求項6】 上記着脱検知手段が、上記電子ペーパの着脱状況を検知すると当該電子ペーパが着脱された上記他方の接続端子の配列位置に基づいた接続端子番号を記憶手段から取得し、上記表示発光制御手段が、上記着脱検知手段が取得した上記接続端子番号に基づいて上記表示処理を行う請求項5に記載の電子ペーパファイル。

【請求項7】 上記他方の接続端子の回転位置を検知する位置検知手段と、上記他方の接続端子における上記電子ペーパの着脱状況を検知するとともに、上記回転位置と上記電子ペーパの着脱状況に基づいて、上記他方の接続端子に上記接続端子番号を付与する着脱検知手段と、該着脱検知手段により付与された接続端子番号に基づいて、上記表示処理を行う上記表示発光制御手段を備えた請求項4に記載の電子ペーパファイル。

【請求項8】 上記着脱検知手段が上記電子ペーパが上記他方の接続端子に着脱されたときに起動する請求項5または7に記載の電子ペーパファイル。

【請求項9】 上記着脱検知手段が電源がONされたときに起動する請求項5または7に記載の電子ペーパファイル。

【請求項10】 上記着脱検知手段が上記電子ペーパへの表示をリセットしたときに起動する請求項5または7に記載の電子ペーパファイル。

【請求項11】 上記電子ペーパ端部に平行に配設された平行リードより構成される上記一方の接続端子と、該電子ペーパを表裏両面から挟み込む挟み板と、当該挟み板の内面に上記各平行リードと先端部が当接するとともに当該電子ペーパ側リードに対応した数の導出リードよりなる上記他方の接続端子を備えた請求項3または4に記載の電子ペーパファイル。

【請求項12】 上記電子ペーパの表示部が、バターン表示が可能な不揮発性メモリを配置した表示シートからなる請求項1又は2に記載の電子ペーパファイル。

【請求項13】 上記電子ペーパの表示部が、バターン表示が可能な不揮発性メモリを配置した表示シートと、この表示シートを照明するための発光シートとからなる請求項1又は2に記載の電子ペーパファイル。

【請求項14】 上記不揮発性メモリとして強誘電性高分子液晶を使用した請求項12又は13に記載の電子ペーパファイル。

【請求項15】 上記発光シートに有機エレクトロルミネセンスを使用した請求項13に記載の電子ペーパファイル。

【請求項16】 上記表示発光制御手段が、上記表示シートの所定領域のみを照明するよう上記発光シートを制御する請求項13に記載の電子ペーパファイル。

【請求項17】 上記本体側に、上記発光シートの輝度を制御する表示発光制御手段を備えた請求項13に記載の電子ペーパファイル。

【請求項18】 上記発光シートが複数色の光源を備えた請求項13に記載の電子ペーパファイル。

【請求項19】 上記発光シートの発光した光が、表面の粗いフィルムを透過する請求項13に記載の電子ペーパファイル。

【請求項20】 上記一方の接続端子が雌型であり、上記他方の接続端子が雄型である請求項2から4の何れかに記載の電子ペーパファイル。

【請求項21】 上記一方の接続端子と表示部との間に、この接続端子の数を減じるための表示用ドライバを積載した表示駆動部を備えた請求項2から4の何れかに記載の電子ペーパファイル。

【請求項22】 上記表示駆動部の厚みが表示部の厚みより大きい請求項21に記載の電子ペーパファイル。

【請求項23】 上記表示駆動部の幅が表示部の幅より広い請求項21に記載の電子ペーパファイル。

【請求項24】 上記表示駆動部に使用する部材のヤング率が上記表示部のヤング率より大きい請求項21に記載の電子ペーパファイル。

【請求項25】 上記表示発光制御手段が、上記電子ペーパの表示部に上記信号授受手段よりの表示用データを記録する上記表示制御手段と、

上記電子ペーパファイルの電源がONされたときに上記発光シートを発光させる上記発光制御手段から構成される

請求項1に記載の電子ペーパファイル。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、紙様のフレキシブルな表示媒体である電子ペーパを本様にした電子ペーパファイルに関するものである。

【0002】

【従来技術】情報化社会の発展に伴い、C.R.T (Cathode Ray Tube) やLCD (Liquid crystal display) 等の表示媒体の性能も急速に向上している。しかしながら、これら表示媒体は、読みやすさ・使いやすさの点でいえば、古くから情報媒体として使用されている“紙”に優るものとはなっていない。そこで、紙様のフレキシブルな表示媒体として“電子ペーパ”という新しい概念が提案されるようになり、この電子ペーパの実現技術として様々な方式が検討されてきた（日本画像学会発行「Japan Hardcopy '99 論文集」P209～P251参照）。

【0003】更に、近年では、複数の電子ペーパを本様にした電子ペーパファイルも提案されている（特表平11-502950号公報等）。このような電子ペーパファイルによれば、多数の電子ペーパを管理するのが容易になるだけでなく、電子ペーパを更に読みやすく使いやすい表示媒体として活用することができる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】ところで、ルーズリーフ式の紙製の本には、所望のページ（所望の紙）のみを取り外して持ち運べるという利点がある。

【0005】しかしながら、上記従来の電子ペーパファイルでは、電子ペーパと本体とが一体となっているため、所望の電子ペーパのみを取り外して持ち運ぶことができない。

【0006】本発明は上記従来の事情に基づいて提案されたものであって、電子ペーパと本体とを着脱可能とした電子ペーパファイルを提供することを目的とするものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は上記目的を達成するために以下の手段を採用している。すなわち、本発明は、図1及び図2に示すように、紙様のフレキシブルな表示媒体である電子ペーパ10と、この電子ペーパ10の表示部11に信号授受手段23（図6に示す23a及び23b）よりの表示用データを記録する表示発光制御手段22を備えた本体20とからなる電子ペーパファイルを前提としている。

【0008】そして、物理的な接続機能と電気的な接続機能とを兼ねた雄雌一対の接続端子の一方を上記電子ペーパ10の表示部11の一方端に備えるとともに、この接続端子の他方を上記本体20側に備えることによって、電子ペーパ10と本体20とを着脱可能としている。このとき、電子ペーパ10側の接続端子13aを雌

型とし、本体20側の接続端子21aを雄型としておけば、本体20から取り外した電子ペーパ10を持ち運ぶ際にも、この電子ペーパ10の接続端子13aを破損や錆びつきから防止できる。

【0009】また、上記本体側の接続端子21aを上記本体20に配設する構成としては、上記本体20上の配列位置を固定した場合と、上記本体20に対して回転自在に接続された可動軸片に備えられる場合がある。

【0010】ここで、上記電子ペーパ10が装着されていない本体側の接続端子21aに対して表示処理を行うことで生じる、表示用データの表示漏れを防止するためには、本体側の接続端子21aにおける電子ペーパ10の着脱状況を検知する着脱検知手段と該着脱状況に基づいて、表示処理を行う表示発光制御手段を設ける。即ち、電子ペーパが装着されている接続端子において表示処理を行うようによることである。

【0011】更に、電子ペーパファイルのページ順に、表示用データが電子ペーパファイルに表示されるようにするために以下の構成がある。上記本体側の接続端子21aの配列位置が本体20に固定されている場合は、接続端子21aの配列位置に基づいた接続端子番号を記憶する記憶手段19を本体20に設け、当該接続端子番号と上記着脱状況に基づいて、上記表示制御発光手段が表示処理を行うようとする。また、上記本体側の接続端子21aが上記可動軸片に備えられた構成では、位置検知手段が検知した、各接続端子21aの回転位置と上記着脱状況に基づいて、上記表示制御発光手段が表示処理を行うようとする。

【0012】上記のように、電子ペーパ側の接続端子13と上記本体側の接続端子21aとが雌雄一対の構成である場合、各本体側の接続端子21が配設される位置が異なると、各接続端子21に電子ペーパ10を装着するためには、各接続端子21の位置と対応した電子ペーパ側の接続端子13が備えられた電子ペーパ10を用意しなければならない。そこで、下記のような構成とすることで、上記本体側の接続端子21aの位置に関係なく、上記本体側の接続端子21aと電子ペーパ側の接続端子13aとが接続可能となる。即ち、電子ペーパ10の端部に平行に複数配設された平行リード設け、一方本体側の接続端子21aに電子ペーパ10を裏表両面から挟み込む挟み板と、当該挟み板の内面に上記各平行リードと先端部が当接するとともに当該電子ペーパ側リードに対応した数の導出リードよりなる上記本体側の接続端子を設けるようとする。

【0013】また、上記電子ペーパ10の表示部11は、図3に示すように、バターン表示が可能な不揮発性メモリを配置した表示シートAを備えている。このようにすれば、表示用データは不揮発性メモリに記録されるため、本体20から取り外された電子ペーパ10は、その表示内容を保持することになる。更に、この表示シ

トAを照明するための発光シートBを上記電子ペーパ10の表示部11に備えた構成とすれば、暗い場所であっても電子ペーパ10の表示内容を確認できる。

【0014】なお、電子ペーパファイルの本体20側に、表示シートAの所定領域のみを照明するよう発光シートBを制御する表示発光制御手段22を備えるようにしてもよい。このようにすれば、例えばタイトル領域など、強調したい領域のみを照明することが可能である。また、この表示発光制御手段22が発光シートBの輝度をも制御するようにしておけば、照明する領域が可変となる。

【0015】尚、表示発光制御手段22は、電子ペーパファイルの電源が投入されたとき、または、本体に物理的なスイッチを設け、ユーザが当該スイッチを押下したときに、上記発光シートBを発光させるようにしてよい。

【0016】また、上記表示発光制御手段22は表示用データを記録する表示制御手段22aと表示シートAの所定領域のみを照明するよう発光シートBを制御する発光制御手段22bとから構成されても構わない。この発光制御手段22bは、電子ペーパファイルの電源が投入されとき、又は、または、本体に物理的なスイッチを設け、ユーザが当該スイッチを押下したときに、上記発光シートBを発光させるようにしてよい。

【0017】

【発明の実施の形態】以下に本発明の実施の形態を図面に従って詳細に説明する。

【0018】図2・図3に示すように、本発明を適用した電子ペーパ10は、データ表示領域である表示部11と、この表示部11を駆動するための領域（データ非表示領域）である表示駆動部12とからなり、更に、上記表示部11は、不揮発性メモリを配置した表示シートAと、この表示シートAを照明するための発光シートBとからなる。

【0019】すなわち、図4に示すように、まず、上側のベースフィルムA₁上に列電極A₁を形成するとともに、下側のベースフィルムA₂上に行電極A₂を形成し、この行電極A₂の上に強誘電性高分子液晶A₁を一定の厚みで塗布する。次いで、この列電極A₁と行電極A₂とが相互に向き合い且つマトリクス状となるように貼り合わせ、更に、上記強誘電性高分子液晶A₁の分子を所定の配向とした後、偏光板A₃・A₄で両側から挟んで貼り合わせる。これによって、例えば図9に示すように、Cmax列Rmax行のマトリクスで形成された画素からなる表示シートAが生成される。

【0020】これに対し、上記発光シートBは、その全面が一様に発光すればよいため、上側のベースフィルムB₁上に共通電極（陽極）B₁を形成するとともに、下側のベースフィルムB₂上に共通電極（陰極）B₂を形成し、この共通電極B₁の上に、絶縁層B₃を用いて所

定のパターンで有機エレクトロルミネセンスB₄を形成（真空蒸着方法で行う）した後、この共通電極B₁と共に共通電極B₂とが相互に向き合うように貼り合わせて生成する。

【0021】最後に、発光シートBが表示シートAを照明するよう、上記のように生成した発光シートBを表示シートAの下側に貼り合わせる。

【0022】ここで、画素の白黒表示は、以下に説明するシャッター機能を利用したマトリクス制御によって行う。すなわち、表示シートAの行電極A₁・列電極A₂間に所定電圧を印加すると、光を透過しない方向に強誘電性高分子液晶A₁の分子の配向が変化し（シャッターがONとなり）、この行電極A₁及び列電極A₂によって特定される画素が黒く表示される。一方、上記所定電圧（以下「正電圧」という）の逆電圧を印加した場合は、光を透過する方向に強誘電性高分子液晶A₁の分子の配向が変化し（シャッターがOFFとなり）、この画素は白く表示される。

【0023】なお、強誘電性高分子液晶A₁は、電圧を印加するのをやめても状態を保持する性質をもつため、本体20から取り外された電子ペーパ10は、その表示内容を保持することになる。

【0024】一方、発光シートBの共通電極B₁・B₂間に電圧を印加すると、有機エレクトロルミネセンスB₄の全面が発光して表示シートAを照明する。すなわち、有機エレクトロルミネセンスB₄が発光すると、この光を透過する白画素（シャッターがOFFとなっている画素）が点灯するようになっている。

【0025】なお、上記したように有機エレクトロルミネセンスB₄は所定のパターンで形成するようにしているため、発光シートBの共通電極B₁・B₂をマトリクス状の個別電極（すなわち行電極及び列電極）とし、この個別電極毎に印加する電圧を変えれば、例えばタイトル領域など、強調したい領域のみを照明することが可能となる。

【0026】また、発光シートBをモノカラーで発光させる場合は全面一様に単色の光源を配置しておけばよいが、フルカラーで発光させる場合はマトリクス状にRGB（Red Green Blue）の光源を配置しておく。フルカラーであっても全面一様に発光させる場合は、上記のように個別電極とするまでもなく共通電極B₁・B₂であってもかまわない。

【0027】更に、表示シートAのベースフィルムA₁或いはA₂、又は、発光シートBのベースフィルムB₁・B₂の表面のいずれかは、粗く形成しておくのが好ましい。このようにすれば、図11に示すように、有機エレクトロルミネセンスB₄の発光した光は粗面Sによって散乱し、目に優しい表示となる。

【0028】ところで、上記のように表示シートAや発光シートBに電圧を印加するためには、これらシート上

の行配線 L_x 及び列配線 L_y （後述する）を、本体20側に備えた図示しない電源と接続しておく必要がある。しかしながら、ルーズリーフ式の紙製の本から所望のページのみを取り外すのと同様の感覚で本体20から所望の電子ペーパー10のみを取り外したい場合もあり、これに対応するためには、電子ペーパー10と本体20とを物理的・電気的に着脱可能とする機構を備えていなければならぬ。

【0029】そこで、本発明では、雌型の接続端子13aを電子ペーパー10の表示部11の一方端に備えるとともに、雄型の接続端子21aを本体20側に備える構成を採用している。このように、電子ペーパー10側の接続端子13aを雌型とし、本体20側の接続端子21aを雄型としたのは、本体20から取り外した電子ペーパー10を持ち運ぶ際に、この電子ペーパー10の接続端子13aを破損や錆びつきから防止するためである。

【0030】また、上記のような C_{max} 列 R_{max} 行のマトリクスで形成された画素を制御する場合、“ $C_{max} + R_{max}$ ”の数のビンを備えた接続端子13a（“ $C_{max} + R_{max}$ ”の数のビン受けを備えた接続端子21a）が必要である。しかしながら、多数のビンを備えた接続端子13aは破損しやすいという欠点があるだけでなく、電子ペーパーファイルの薄型化・軽量化の観点からも好ましくない。

【0031】そこで、本発明では、通常のLCDで使用される表示用ドライバ12aを電子ペーパー10側の接続端子13aと表示部11との間（すなわち表示駆動部12）に積載し、この接続端子13aのビン数を減じるようにしている（後述する）。

【0032】なお、電子ペーパー10と本体20との着脱が容易にできるよう、図3に示すように、表示駆動部12の厚みは表示部11の厚みより大きくなり、また、表示駆動部12に使用する部材には、そのヤング率が表示部11のヤング率より大きい部材を用いるのが好ましい。更に、表示駆動部12の幅を表示部11の幅より広くしておけば、図5に示すように、矢印①の方向から表示駆動部12を指で押す等の容易な方法で、確実に、電子ペーパー10を本体20に取り付けることができる。

【0033】ここで、上記した表示制御すなわち画素を白黒表示する制御や、発光制御すなわち表示シートAを照明する制御は、本体20の背板24内に備えた表示発光制御回路（表示発光制御手段：図7に示すように表示制御手段22aと発光制御手段22bよりなるが、この2つの手段は1体であっても別体であってもよい）22で行うようにしており、以下、この表示発光制御手段22（もしくは発光制御手段22b）が行う表示制御について説明する。尚、この表示発光制御手段22または、上記発光制御手段22bは、電子ペーパーファイルの電源が投入されたとき、又は、本体に設けられた物理的なボタンをユーザが押下したときに上記発光シートBを発光

させるようにしてもよい。

【0034】すなわち、 C_{max} 列 R_{max} 行のマトリクスで形成された画素からなる表示シートA（図9参照）に、後述する信号授受手段23から受けた2値のシリアルデータを表示する場合、表示発光制御手段22は、まず初期設定として、列カウンタ（C）に“0”を設定するとともに行カウンタ（R）に“1”を設定する（図10、ステップS1）。

【0035】次いで、表示発光制御手段22は、信号授受手段23から得られる1ビット分のデータが終了データ（例えば“EOF”）であるか否かを判断し、終了データであると判断した場合は表示処理を終了する（図10、ステップS2→S3→S5→S6）。また、信号授受手段23から1ビット分のデータが得られない場合も、表示発光制御手段22は、シリアルデータがないものとして表示処理を終了する（図10、ステップS3→S4）。

【0036】一方、上記1ビット分のデータが終了データでないと判断した場合の表示発光制御手段22は、列カウンタ（C）に“1”を加算した後、この列カウンタ（C）が最大列数 C_{max} より小さいか否かを判断する（図10、ステップS7→S8）。そして、最大列数 C_{max} より小さいと判断した場合は、現在の行カウンタ（R）及び列カウンタ（C）によって特定される画素についての表示処理を上記1ビット分のデータの内容に基づいて行う（図10、ステップS8：Yes→ステップS9）。

【0037】例えば、現在の行カウンタ（R）及び列カウンタ（C）が共に“1”であり、上記1ビット分のデータが“0”である場合、表示発光制御手段22は、アドレスデータ[1, 1]と正電圧を印加する旨を示すONとからなる表示処理データを例えば8ビットなど所定ビットのデータとして表示用ドライバ12aに渡し、これを受けた表示用ドライバ12aは、上記表示処理データをデコードし、アドレスデータ[1, 1]に対応する行配線 L_x ・列配線 L_y に正電圧を印加する。この行配線 L_x は、行電極A_xと該行電極A_xから表示用ドライバ12aまでの配線とからなり、列配線 L_y は、列電極A_yと該列電極A_yから表示用ドライバ12aまでの配線とからなるため、上記のように正電圧を印加すると、アドレスデータ[1, 1]によって特定される画素（以下「画素[1, 1]」）という）が黒く表示されることになる。

【0038】一方、上記1ビット分のデータが“1”である場合、表示発光制御手段22は逆電圧を印加する旨を示すOFFを表示処理データに設定し、表示用ドライバ12aはアドレスデータ[1, 1]に対応する行配線 L_x ・列配線 L_y に逆電圧を印加する。これによって、画素[1, 1]が白く表示されることになる。

【0039】なお、現在の表示シートAに表示されてい

る内容を意識しない場合、表示処理データに設定する情報としてはON・OFFだけを考えればよい。しかしながら、表示シートAに追加事項を書き込む、或いは、既に書き込まれた内容を訂正する等の処理をディジタイザ等を使用して行う場合、アクセスする必要のない画素（すなわち、正電圧も逆電圧も印加する必要のない画素）が生じる。そこで、このような場合は、上記アクセスする必要のない画素の表示処理データにはNONを設定し、表示用ドライバ12aが動作しないようにしておく。

【0040】以上の処理を繰り返し、1行目の画素[1, 2] [1, 3] … [1, C_{max}]についての表示処理を終了したら（すなわち、列カウンタ（C）がC_{max}を越えたら）、表示発光制御手段22は行カウンタ（R）に“1”を加算する（図10、ステップS8: No→ステップS10）。なお、これら1行目の画素[1, 2] [1, 3] … [1, C_{max}]の表示処理データは、上記画素[1, 1]の表示処理データに続いてシリアルに表示用ドライバ12aへ渡される。

【0041】そして、表示発光制御手段22は、上記のように加算した行カウンタ（R）が最大行数R_{max}以下であるうちは、この行カウンタ（R）によって特定される行の画素についての表示処理を行い（図10、ステップS11: Yes→S13→S15→S2）、行カウンタ（R）が最大行数R_{max}を越えたら改ページを行う（図10、ステップS11: No→S12）。なお、改ページを行った場合は、列カウンタ（C）及び行カウンタ（R）を初期化しておく（図10、ステップS14）。

【0042】このような表示制御によれば、1ページ内に収まらない多量の表示用データを信号授受手段23から受けた場合であっても、不具合なく表示処理を行うことができる。

【0043】なお、ここでは、信号授受手段23から受けた表示用データが2値のドットデータであることを前提にしているが、A S C I I形式やB i n a r y形式など他の形式である場合は、表示発光制御手段22が2値のドットデータに変換するようにしている。この信号授受手段23は表示用データを受け取るための手段であり、具体的には、図6（A）に示すように、フラッシュカード・スマートメディア等の信号格納媒体のコネクタ23aや、シリアルポート・パラレルポート・R S - 2 3 2 C等のコネクタ23bなどをいう。

【0044】また、上記の説明では、不揮発性メモリとして強誘電性高分子液晶A₁を使用することとしているが、この不揮発性メモリは、電気泳動型マイクロカプセルや導電性トナー等であってもかまわない。

【0045】更に、本体20は、上記した各種制御を可能とする構造であればよく、図6に示す構造に限定されるものではない。

【0046】また、図6では、複数の電子ペーパ10に対応する接続端子21a及び21bを横一列に配置する構造を例示しているが、これら接続端子21a及び21bは、図8（A）に示すように、縦方向にオーバラップさせてもかまわない。このようなオーバラップ構造によれば、より多くの電子ペーパ10を備えることが可能となる。なお、この場合は、図8（B）に示すように、電子ペーパ10側の接続端子13a及び13bも縦方向にオーバラップした構造とすることはいうまでもない。

【0047】ところで、本発明にかかる電子ペーパ10は、本体20から取り外すことが可能である。そこで、表示処理データの表示漏れを防止するために、電子ペーパ10が装着されている接続端子21にのみ表示処理データを転送するように、以下に説明する着脱検知手段30を上記本体20に設けるようにしてもよい。

【0048】ここで図6において、本体側の接続端子21は当該本体位置が固定された状態で配列されており、記憶手段19には上記本体側の各接続端子21の番号（以下接続子番号という）が配列順序に基づいて記憶されている。この状態で、上記着脱検知手段30は、電子ペーパ10が装着されている接続端子21を検知し（後述する）、このように検知した接続端子21の接続端子番号を記憶手段19から取得し、上記表示発光制御手段22に通知する。尚、ここでいう接続端子番号とは、図16に示す電子ペーパファイルの表紙31に最も近い位置にある接続端子21を“1”とし、以下表紙31から離れるに従って大きくなる番号であり、記憶手段19は本体20に備えられているものとする。これによって、上記表示発光制御手段22は、上記通知された接続端子番号に基づいて表示処理データを転送することで、電子ペーパが接続されていない接続端子に対する表示処理データの送信、即ち、表示漏れを防止するようにしている。

【0049】ここで、電子ペーパ10が装着されている接続端子21を上記着脱検知手段30が検知する構成の例として、下記のような構成がある。

【0050】例えば、図12に示すように、上記本体20に上記着脱検知手段30を設け、該着脱検知手段30から2つの“1”信号を各接続端子21に出力する。このとき電子ペーパ10が接続端子21に装着されると、当該2つの“1”信号は、電子ペーパ側にある接続端子13を介して、電子ペーパの表示駆動部12にあるアンドゲート33に入力される。これによって、該アンドゲート33がから“1”信号を上記接続端子21と上記接続端子21とを介して上記着脱検知手段30に返すようにする。この結果、該着脱検知手段30は、電気信号の出力先の接続端子21に電子ペーパ10が接続されていることを検知する。

【0051】また、図13に示すように本体20の背板24の内面に押しボタン34を設けた構成でもよい。即

ち、所定の接続端子21に電子ペーパ10が装着されるとともに、当該電子ペーパ10によって押しボタン34が押下されるようにし、該押下により、上記着脱検知手段30は所定の接続端子21に電子ペーパ10が装着されていることを検知する。

【0052】同じく、図14に示すように、接続端子21の突出方向に光を発するフォトカプラ35を本体20に設け、当該光の反射光量をもとに、上記着脱検知手段30が電子ペーパ10の脱着を検知する構成でもよい。即ち、接続端子21に電子ペーパ10が装着されていると、該フォトカプラ35から発せられた光は、電子ペーパ10にて反射する。従って、上記着脱検知手段30は、当該フォトカプラ35が一定の反射光量を受け取ったことを認識すると、当該接続端子21に電子ペーパ10が装着されていることを検知する。

【0053】以上では、図6に示すように本体側の接続端子21は上記背板24に直接配列され、その平面位置はもちろん回転位置にも固定されている構造について述べたが、接続端子が回転できるようにするとページめくり等で扱いがより便利になる。

【0054】図15において、所定の長さの円筒形の可動軸片50の上下端部に、他の可動軸片50の上下端部と相互に回転自在に接続可能な差込部50a, 50bを設ける。この可動軸片50の内周面には、図16(b)に示すように、周方向に次第に幅が広くなる反射部53が描かれており、更に、可動軸片50の外周の軸方向に、本体側の接続端子21が配設されている。このように、構成された可動軸片50を相互につなぎ合わせて接続体52が形成される。

【0055】一方、図17に示すように、フォトカプラ54は上記各可動軸片50内に上記反射部53と対応した位置で素子固定軸55に固定されている。この素子固定軸55は上記接続体52に挿入され、軸端片56に固定されている。この軸端片56には、更に、上記接続体52の上下端が回転自在に固定され、また、当該軸端片56は上記背板24の内面に固定するようになっている。当該軸端片56を背板24の内面に固定する手段また、素子固定軸55の両端を軸端片56の両端に固定する手段も種々考えられるが、ここでは、本願発明の本質ではないので省略する。

【0056】上記のように接続体52が背板24に取り付けられた状態で、各フォトカプラ54は、同じ方向に光を出射するとともに、各可動片50に取り付けられた接続端子21の向きを揃えたとき、各接続端子の内面に描かれた反射部53も内周に沿った軸方向に同じ幅を示すことになる。

【0057】これによって、フォトカプラ54は、上記各可動軸片50の回転角、即ち各電子ペーパ10の回転角に対応する信号を出力することになる。

【0058】上記においては各可動軸片が相互に直接接

続される構成について説明したが、図18に示すように各可動片50の間に中間固定片57を介在させると更に安定して接続体52を背板24に取り付けることができる。即ち、中間固定片57に対して、各可動片部の差込部50a, 50bを回転自在に差し込んで各可動片50をつなぎ合わせて接続体52を構成するとともに、このように構成された接続体52の両端を上記と同様に上記軸端片56で背板24に固定するようにし、更に、上記中間固定片57でも背板24に固定するようになっている。この構成において、上記素子固定軸55は、上記の例と同様両端の軸端片56間に固定してもよいし、また、図19に示すように、各中間固定片57(あるいは軸端片56)からフォトカプラ54を取り付ける素子固定軸55を各可動片50の内部に突出させるように構成してもよい。

【0059】また、上記フォトカプラ54に代えて、図20に示すように、パリアブル抵抗70を使用することでもよい。即ち、上記素子固定軸55に上記可動軸片50の回転を妨げないようにドーナツ上のパリアブル抵抗70を固定し、各可動軸片50の内面に、上記ドーナツ上のパリアブル抵抗70に接する可動端子71を備えるようにする。この場合は、もちろん上記接続端子21を同じ方向に向けた時に各パリアブル抵抗70は同じ値を出力するようになっており、これによって各電子ペーパの回転角が得られることになる。

【0060】尚、上記可動軸片50が透明な材質で作られている場合は、上記反射部53を上記可動軸片50の外周面に描いててもよい。

【0061】図16(a)、図20に示すように、フォトカプラ54又は上記パリアブル抵抗70を使用することで得た本体側の各接続端子21の回転角を、本体20にある位置検知手段36は上記着脱検知手段30に通知する。該着脱検知手段30は、電子ペーパ10が装着されている接続端子21を検知し、上記通知に基づいて該検知された接続端子21に接続端子番号を付与する。ここでいう接続端子番号とは、例えば、電子ペーパファイルの表紙31に最も近い位置にある接続端子を"1"とし、以下表紙31から離れるに従って大きくなる番号である。

【0062】統いて、上記着脱検知手段30は、接続端子番号を上記表示発光制御手段22に通知し、この通知を受けた上記表示発光制御手段22は、該接続端子番号順に上述した表示処理を行うようになっており、これによって、表示処理データがページ順に表示されるようになる。

【0063】ところで、以上で述べた、電子ペーパ10側の接続端子13は、電子ペーパ10の所定の位置で固定されており、即ち、電子ペーパ10は、当該接続端子13と対応した位置にある本体側の接続端子21にのみ接続することが可能である。即ち、図21(a)、

(b) に示すように、複数の接続端子21が本体20の縦方向に対してそれ異なる位置に設けられている場合は、本体側の各接続端子21に接続可能な位置に接続端子13を持つ電子ペーパ10を用意しなければならないという不具合があった。そこで、接続端子21の位置に関係なく、電子ペーパ10を装着可能とするために、下記の構成を採用してもよい。

【0064】例えば、図22に示すように、電子ペーパ10の側の端部に、表示処理データを転送するための必要な数のリード40を、縦方向に平行に配設しておく。

【0065】一方、図23に示すように、上記可動軸片50から当該可動軸片50の径方向に電子ペーパ10を厚み方向に弹性で挟み込む2枚の挟み板41を突設し、当該挟み板41の内面に上記電子ペーパ10に設けたリード40のそれと先端が当接する導出リード42を設けて本体内の導出リード42に導くように構成する。ここで、各接続端子21を構成する導出リード42の数は、上記電子ペーパ側のリード40の数と同じであり、当該導出リード42は先端のみで上記リード40と電気的に接続可能な接点43を持っている。この本体側の接続端子21にある挟み板41で電子ペーパ側の接続端子13を両側から挟み込むように差し込むことで、各リード40a, b, c, dと各接点43a, b, c, dとが接するようになっている。これによって、上記表示発光制御手段22が転送した表示処理データは、該接点43a, b, cを介して、所定の接続端子13に表示処理データが流れようになる。

【0066】また、上記のように、上記着脱検知手段30が通知した接続端子番号に基づいて、上記表示発光制御手段22が、上記表示処理を行うと、電子ペーパ10が装着されている接続端子の接続端子番号が当該電子ペーパ10に表示されるようにもよい。このように接続端子番号を電子ペーパ10に表示すれば、当該電子ペーパ10を本体20から取り外した後でも、ユーザは、当該接続端子番号を見ることで、電子ペーパ10に表示されている表示処理データの順番が容易に分かるようになる。

【0067】また、本体20に備えられた記憶手段19に表示処理データが記憶されている場合は、下記のようなことを実施することが可能となる。

【0068】例えば、所定の接続端子21に装着されていた電子ペーパ10を取り外し、異なる接続端子21に当該電子ペーパ10を装着すると、表示処理データがページ順に表示されない場合が発生する。

【0069】そこで、上記着脱検知手段30が、電子ペーパ10の着脱を常に感知するように設定しておく。即ち、当該着脱検知手段30は、電子ペーパ10が接続端子21に装着または、接続端子21から取り外されるとを検知すると、上記のように電子ペーパ10が装着されている接続端子21の接続端子番号を上記表示発光制

御手段22に通知する。また、本体20に上記位置検知手段36が備えられている場合、当該位置検知手段36は、上記着脱検知手段30と連動して上記のように接続端子番号を接続端子21に付与し、当該接続端子番号を上記表示発光制御手段22に通知する。

【0070】これによって、上記通知を受けた上記表示発光制御手段22は、上記記憶手段19から表示処理データを読み出し、通知された接続端子番号に基づいて上記表示処理を行う。

【0071】また、電子ペーパ10に記憶手段があり、当該記憶手段に、表示処理データが記憶されている場合は、上記表示発光制御手段22は表示処理データを当該記憶手段から取得して、上記のように表示処理を行うようにもよい。尚、本体20に、図示しない所定のボタンを設けて、ユーザが当該ボタンを押下することで、上記着脱検知手段30または上記位置検知手段36が作動するようにもよい。更に、電子ペーパファイルの電源投入時や、電子ペーパの表示を一旦クリアにしたときに、上記上記着脱検知手段30または上記位置検知手段36が自動的に作動するようにもよい。

【0072】尚、上記表示用データには発光制御データが含まれており、上記表示発光制御手段22もしくは発光制御手段22bはこの発光制御データに基づいて発光制御を行うことになる。

【0073】

【発明の効果】以上のように、本発明では、本体から取り外した電子ペーパが、その表示内容を保持することを可能としている。また、発光シートを備えた構成としているため、暗い場所であっても電子ペーパの表示内容を確認できる。

【0074】更に、不揮発性メモリとして強誘電性高分子液晶を使用するようとしているため、リアルタイム双方向通信等において優れたデータ送受信性・160度以上の広視野角・数十μsec以内の高応答性を確保できる。なお、強誘電性高分子液晶及び有機エレクトロルミネセンスを使用すれば表示部の構成がシンプルとなる結果、電子ペーパファイルの薄型化・軽量化・低価格化が図れるという効果もある。

【0075】本体にある記憶手段に接続端子番号を記憶させることで、表示処理データの表示漏れを防止するとともに、電子ペーパファイルにおけるページ順に表示処理データが表示されることになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明を適用した電子ペーパファイルの外観図である。

【図2】本発明を適用した電子ペーパの外観図である。

【図3】本発明を適用した電子ペーパの構成図である。

【図4】表示シート及び発光シートの構成例である。

【図5】本発明を適用した電子ペーパの他の形態を示す図である。

【図6】本発明を適用した電子ペーパファイルの本体外観図である。

【図7】電子ペーパファイルの表示発光制御手段を示した図である。

【図8】オーバラップ構造を採用した電子ペーパファイルの外観図である。

【図9】マトリクスの説明図である。

【図10】本発明における表示処理を示すフローチャートである。

【図11】粗面の説明図である。

【図12】本体側の接続端子における電子ペーパの着脱状態を検知する方法を示す図である。

【図13】本体側の接続端子における電子ペーパの着脱状態を検知する方法を示す図である。

【図14】本体側の接続端子における電子ペーパの着脱状態を検知する方法を示す図である。

【図15】回転型構造を採用した本体外観図である。

【図16】本体の接続端子の位置を検出する方法を示した図である。

【図17】接続体内にフォトカプラを配設したことを示す図である。

【図18】中間固定片を用いたことを示す図である。

【図19】中間固定片に素子固定軸を配設した図である。

【図20】本体の接続端子の位置を検出する方法を示した図である。

【図21】本体側の接続端子が縦方向に対して異なる位置に設けられたことを示す図である。

【図22】電子ペーパ側の接続端子の形状を示す図であ

る。

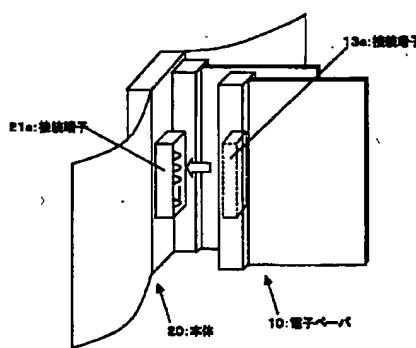
【図23】本体側の接続端子の接続端子の形状を示す図である。

【符号の説明】

10	電子ペーパ
11	表示部
12	表示駆動部
12 a	表示用ドライバ
13 a～c	電子ペーパ側の接続端子（雌型）
19	記憶手段
20	本体
21 a～c	本体側の接続端子（雄型）
22	表示発光制御回路（表示発光制御手段）
22 a	表示制御手段
22 b	発光制御手段
23	信号授受手段
30	着脱検知手段
36	位置検知手段
40 a, b, c, d	リード
41	挟み板
42	導出リード
43 a, b, c, d	接点
50	可動軸片
52	接続体
A	表示シート
A.	強誘電性高分子液晶
B	発光シート
B.	有機エレクトロルミネンス

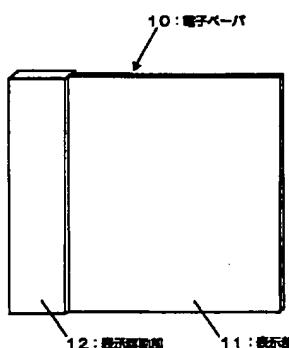
【図1】

本発明を適用した電子ペーパファイルの外観図



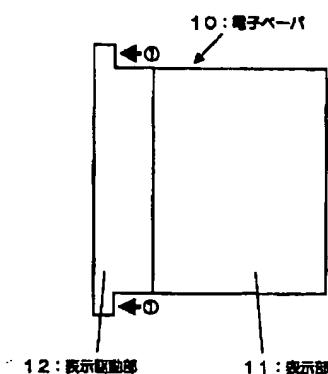
【図2】

本発明を適用した電子ペーパの断面図

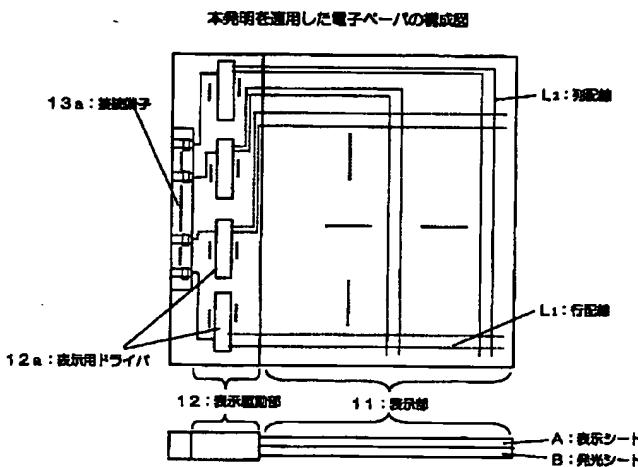


【図5】

本発明を適用した電子ペーパの他の形態

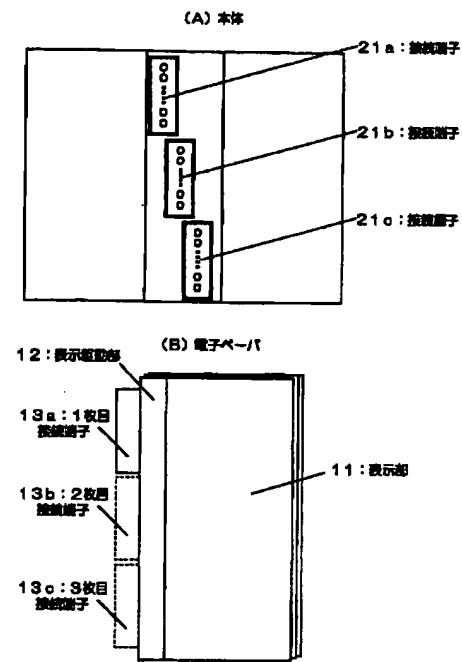


【図3】

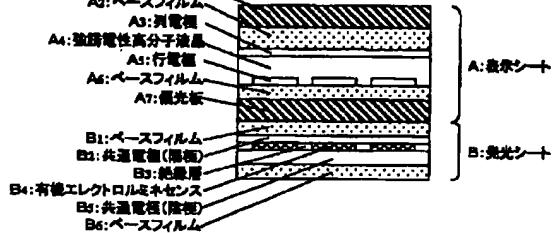


【図4】

オーバラップ構造を採用した電子ペーパ/ファイルの概略図

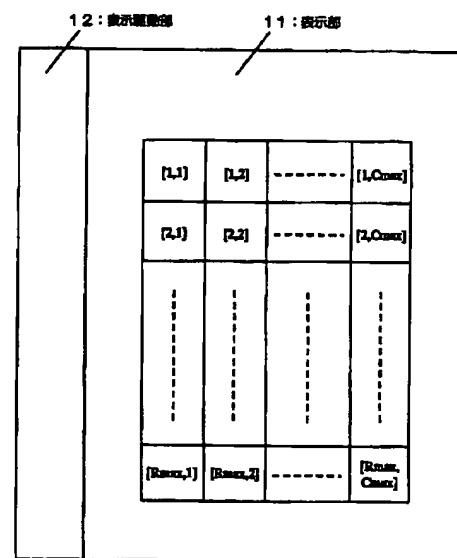
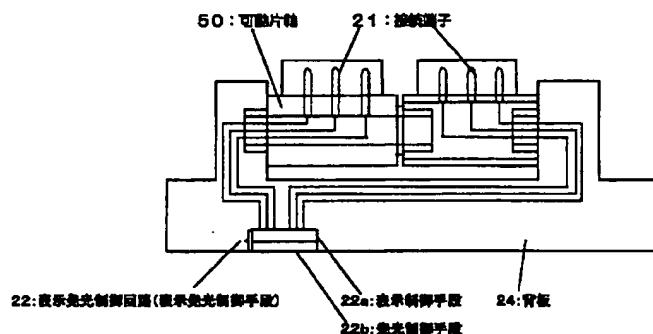


【図8】



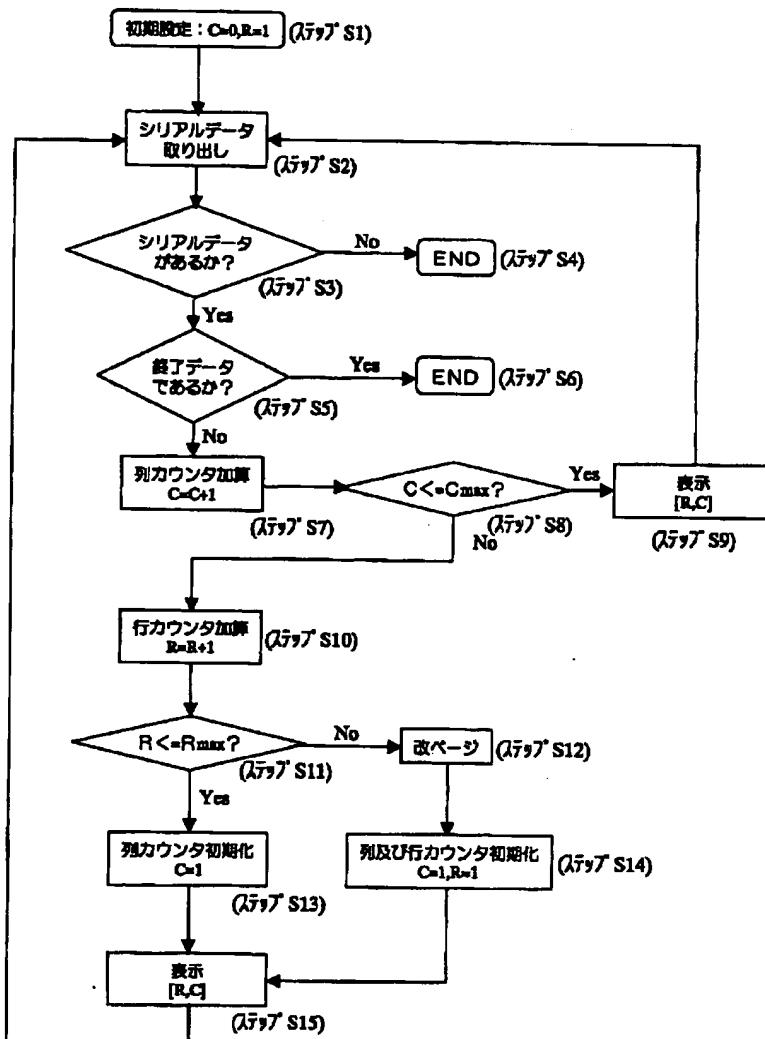
【図6】

回転型構造の内部説明図



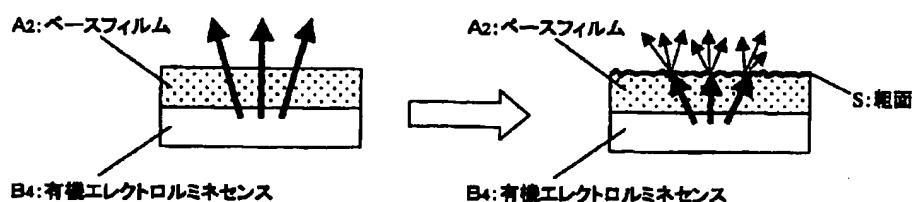
【図9】

本発明における表示処理を示すフローチャート

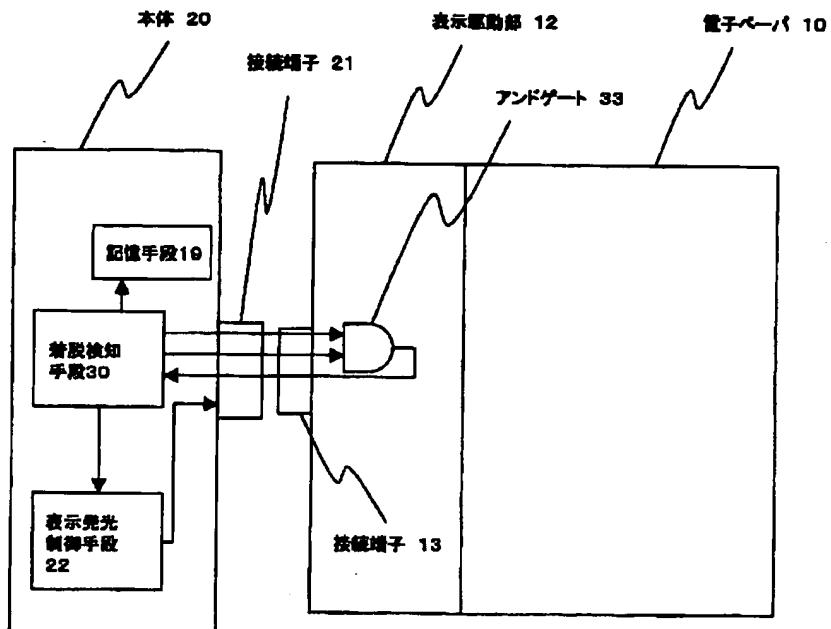


【図10】

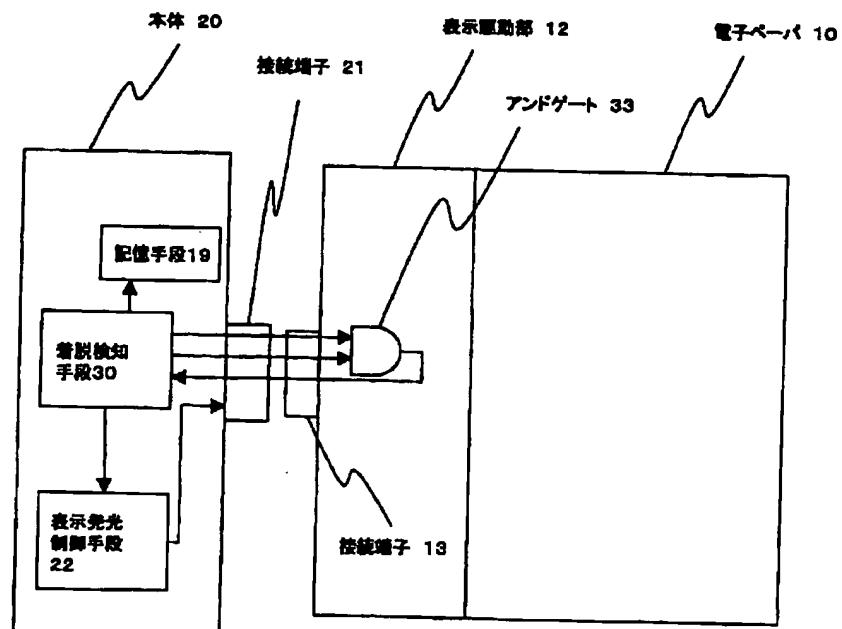
画面の説明図



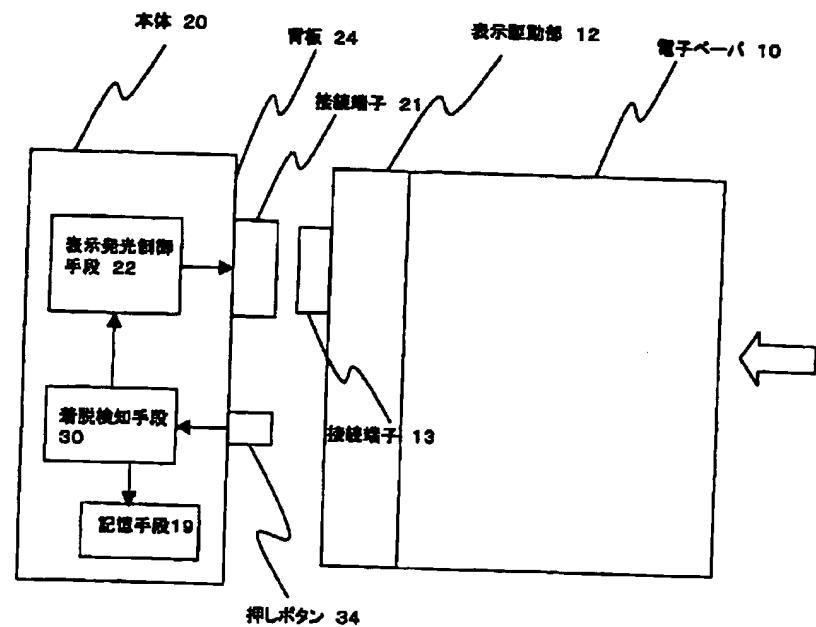
【図11】



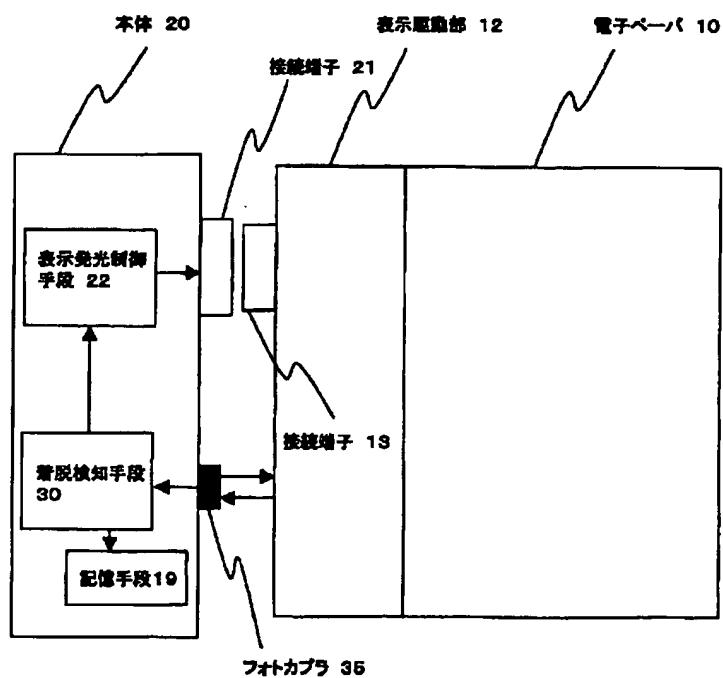
【図12】



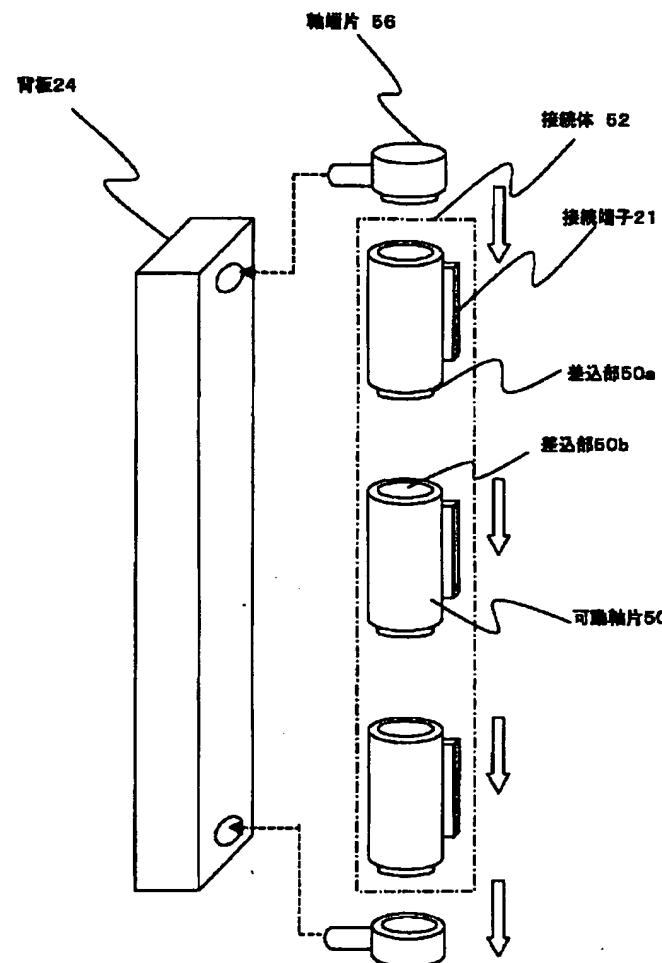
【図13】



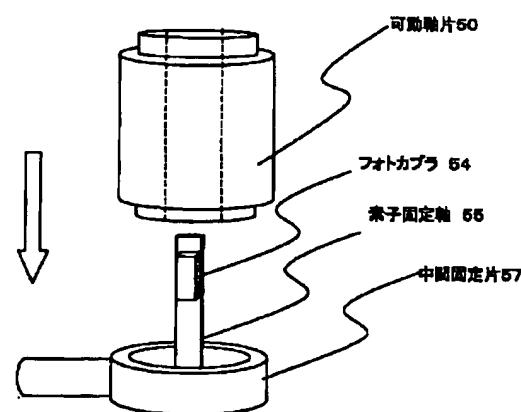
【図14】



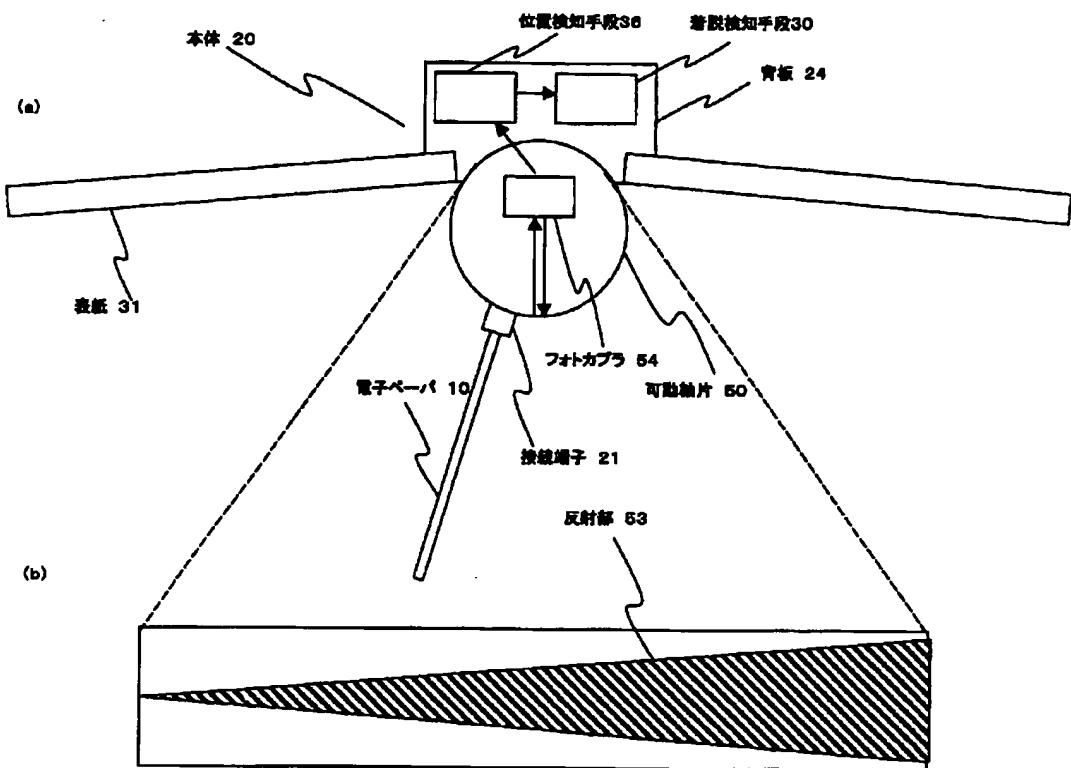
【図15】



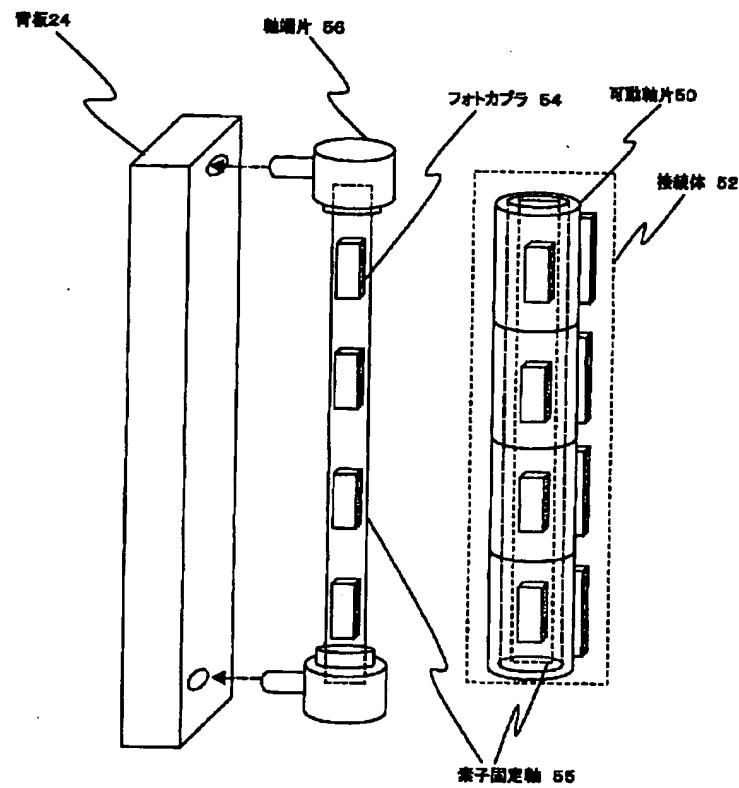
【図19】



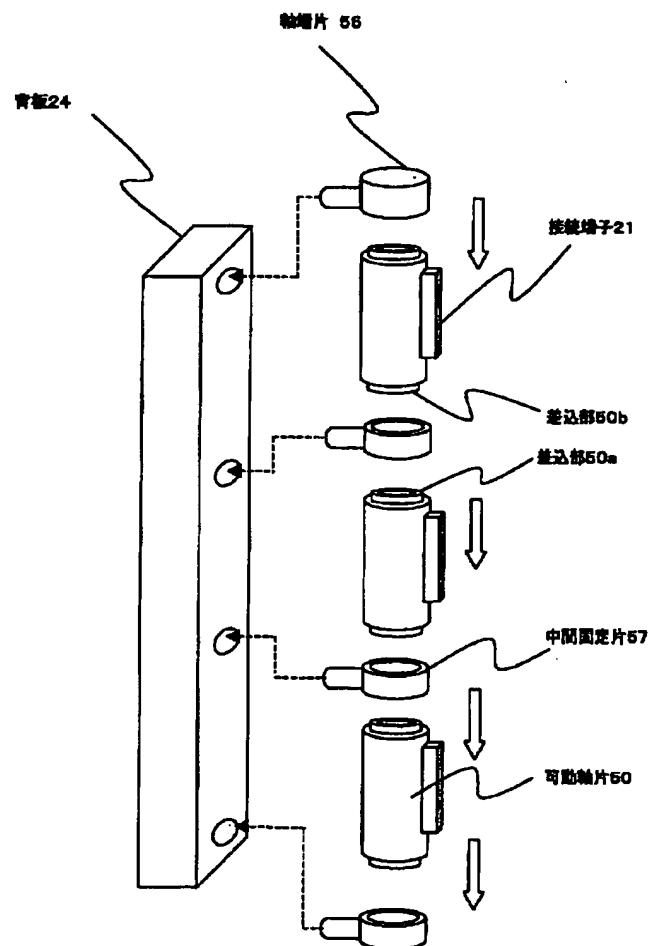
【図16】



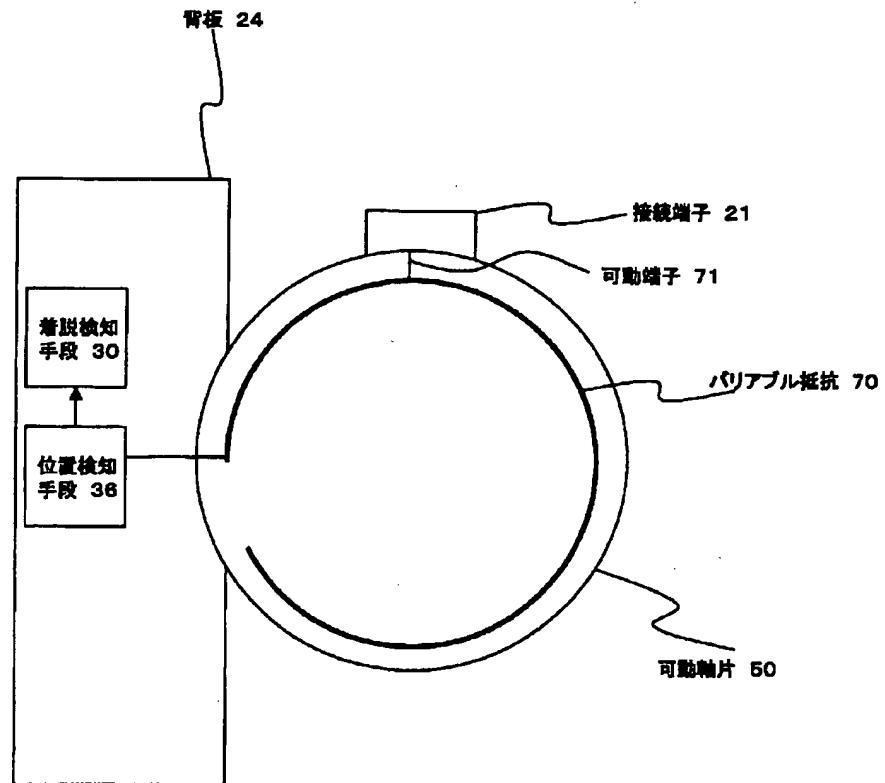
【図17】



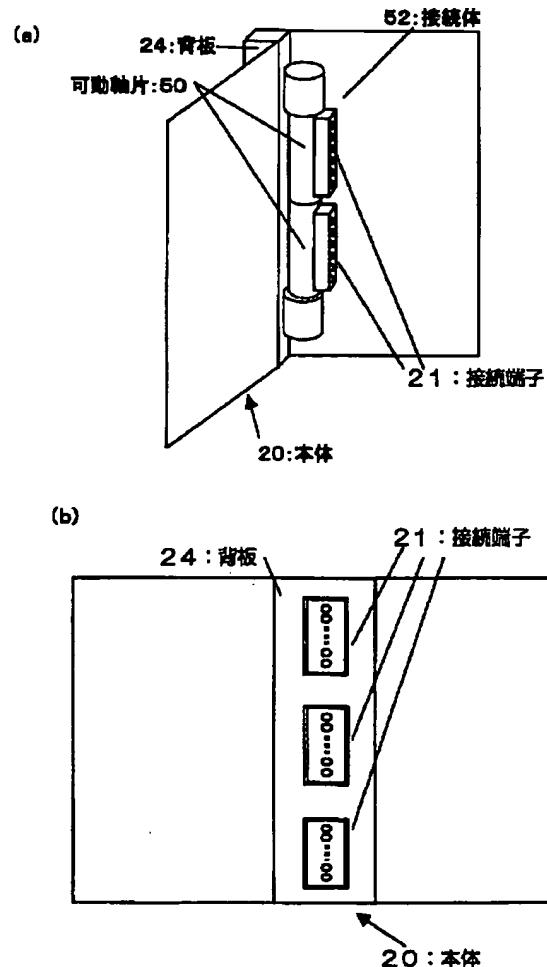
[図18]



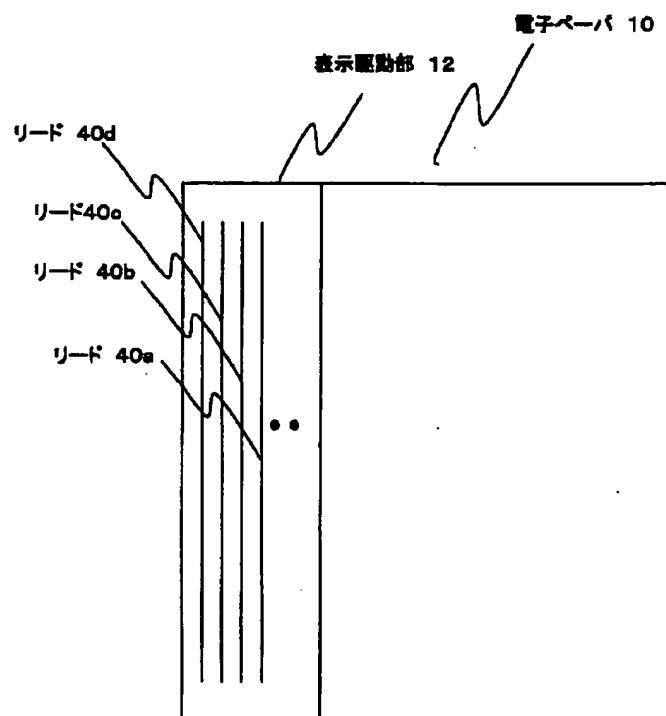
[図20]



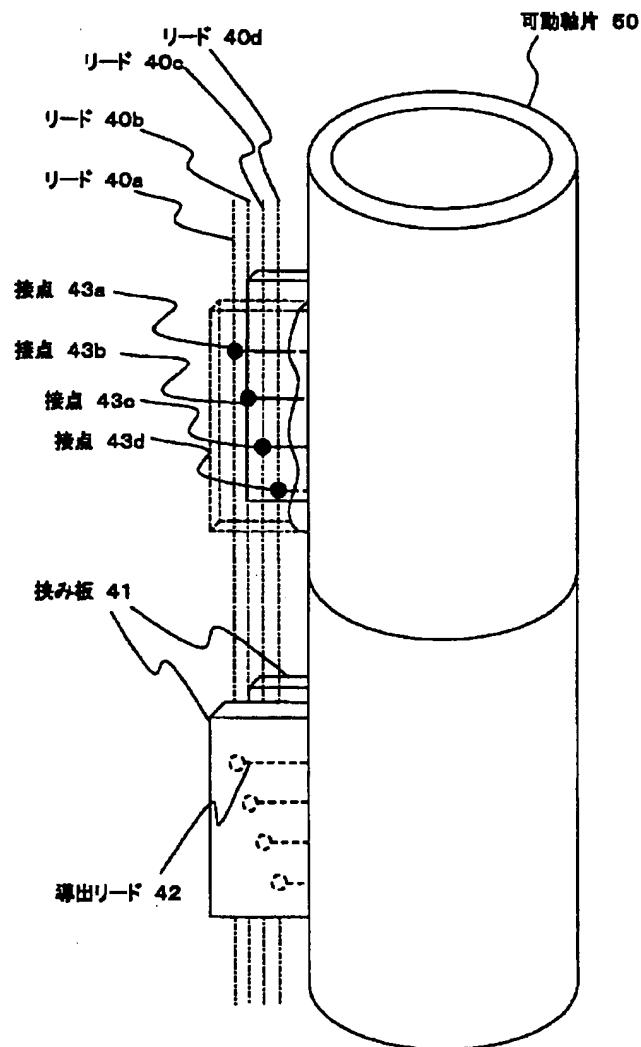
【図21】



【図22】



【図23】



フロントページの続き

(51)Int.C1.

G 06 F 1/18

識別記号

F I

G 06 F 1/00

マーク (参考)

3 12 K

3 20 J